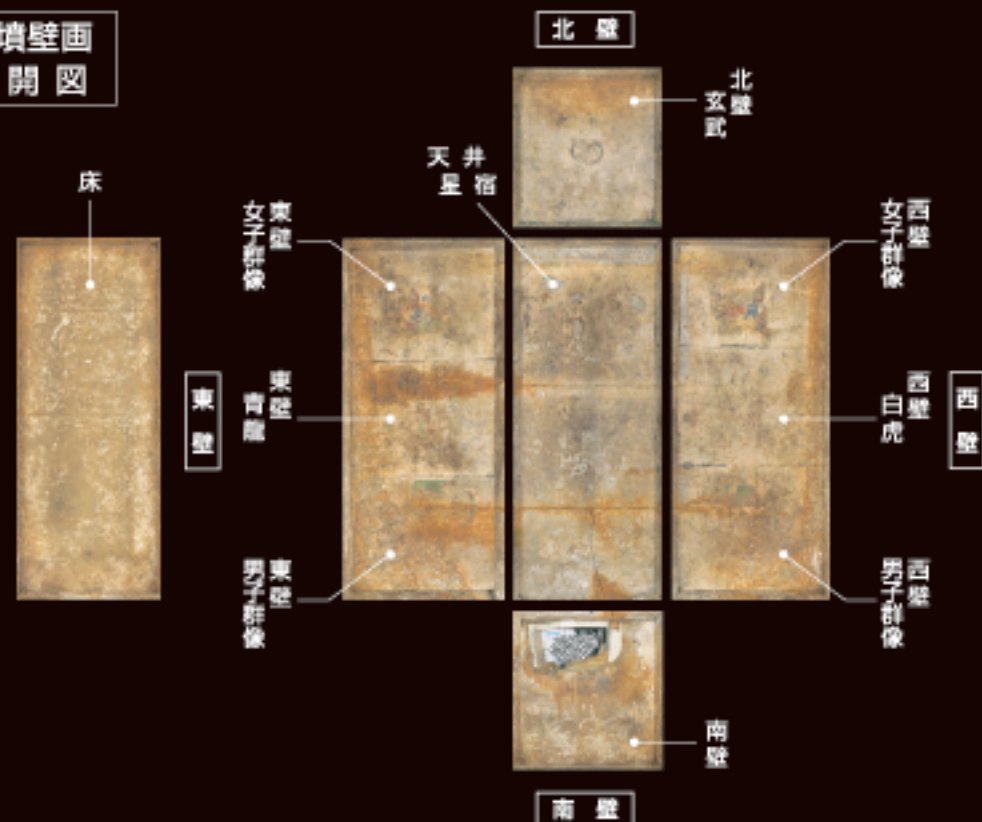


高松塚古墳壁画
石室展開図



修理作業室
石材位置図



文化庁文化財部古墳壁画室
TEL:03-5253-4111(代表)

平成20年5月

- ・主催：文化庁、国立文化財機構奈良文化財研究所、国立文化財機構東京文化財研究所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、明日香村
- ・写真撮影：国立文化財機構奈良文化財研究所、文化庁
- ・表紙：見学用通路の窓ガラスから見た修理作業室内：石室解体後の壁画養生紙の取りはずし：顕微鏡下で、修理作業を行う：科学分析（顔料等調査）の様子

国宝高松塚古墳壁画 修理作業室の公開

文化庁文化財部古墳壁画室

一般公開：平成20年5月31日(土)から6月8日(日)まで



(上記写真) 見学用通路の窓ガラスから見た修理作業室内



石室解体後の壁画養生紙の取りはずし



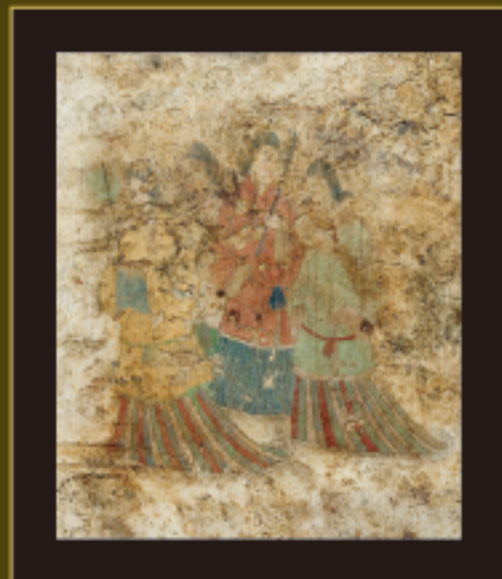
顕微鏡下で、修理作業を行う



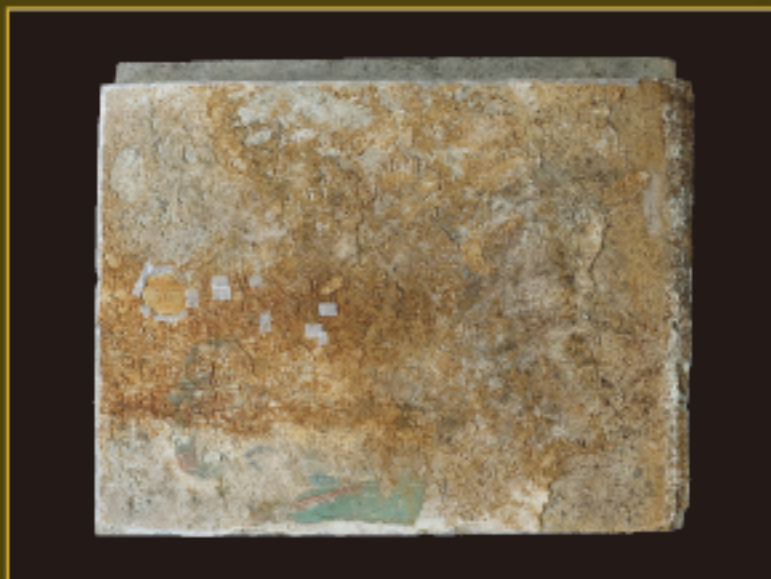
科学分析（顔料等調査）の様子



西壁女子群像(石材)の写真



西壁女子群像(拡大)



東壁男子群像(石材)の写真



東壁男子群像(拡大)



玄武(石材)の写真



玄武(拡大)

～解説～

高松塚古墳の壁画は、いずれも表面に漆喰を塗った凝灰岩に描かれています。

飛鳥美人の名で親しまれている西壁の女子群像は、石室西壁の最も北寄りに描かれています。四人の女性が黄、薄桃、赤、緑の衣を着け、左右思い思いの方を向いています。頭の位置をあえて不揃いにし、また四人を少しずつ重ねるように描くことで人物の間に自然な空間を作り出しています。その手には「孫の手」のような形の「如意(にょい)」や柄の長い団扇を持っています。黒く長い髪は首の後ろあたりで束ねています。顔や衣の輪郭は柔らかな墨の線で描かれており、肌には淡い桃色を塗り、唇は鮮やかな赤色です。

東壁の男子群像は、土砂の流入によって大きく損なわれていますが、緑の地に赤色の縁飾りを付けた「蓋(きぬがさ)」の下に四人の男性が描かれています。その姿は、女子群像よりも少し太い墨の線であらわされ、緑や青、黄などで彩った衣を着け、頭には黒い冠を戴いています。左端の男性は、大刀を納めたと見られる赤色の包みを肩に掛け、その隣の男性は首から袋を下げています。この二人は会話をしているかのように顔を向き合っています。

北壁の玄武は、四神(青龍・朱雀・白虎・玄武)のうち北方の守り神とされ、灰色の亀の上に青緑色の蛇が円を描くように巻き付いています。亀と蛇の頭が描かれていたとみられる中心部分が漆喰ごと失われているのは残念ですが、その形はキトラ古墳の玄武と極めて近いことが知られています。